



華井 和代

東京大学 未来ビジョン研究センター 特任講師

東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了（国際協力学博士）。東京大学公共政策大学院特任助教、未来ビジョン研究センター講師を経て2022年4月より現職。コンゴの紛争資源問題と日本の消費者市民社会のつながりを研究。2019年にNPO法人RITA-Congoを設立し、共同代表に就任した。主著は『資源問題の正義—コンゴの紛争資源問題と消費者の責任』（東信堂、2016年）。2021年よりアフリカ7か国における新型コロナウイルス感染症の人々への影響を調査する研究プロジェクトを主導している。



クリスチャン・S・オチア

名古屋大学 大学院国際開発研究科 准教授

国連アフリカ経済委員会 政策アドバイザー

名古屋大学大学院博士課程修了、博士（国際開発専攻）。国連食糧農業機関コンサルタント、関西学院大学国際学部専任講師を経て、2018年より現職。専門は産業政策、計量経済学。著書『Designing Integrated Industrial Policies Volume I & II』（編著、Routledge、2020年）ほか。



大平 和希子

ハーバード大学 アフリカ研究センター ポストドクトラルフェロー

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了（国際貢献）。博士論文では「なぜ近代アフリカで王国や首長国といった伝統的権威が影響力を増しているのか」というテーマで、ウガンダの伝統的権威（ブニョロキタラ王国）と中央・地方政府の関係性の研究に取り組んだ。現在は、他国の伝統的権威との比較研究に取り組むほか、ウガンダの伝統的権威と中国企業との関係性を考察する中国アフリカ研究にも着手している



細井 友裕

東京大学 大学院総合文化研究科 国際社会科学専攻 博士後期課程

南アフリカ政治やアフリカをめぐる国際関係を中心に、現代アフリカ政治に広く関心を持ってきました。これまで、アフリカ諸国の行政機関のキャパシティや公共サービス提供をめぐる問題を研究してきました。博士論文では、南アフリカの行政改革の過程と、行政サービス提供の効率化を目指した法制度の実態を分析しています。



稲場 雅紀

(特活) アフリカ日本協議会 共同代表／国際保健部門ディレクター

90年代に貧困問題やLGBTの人権などへの取り組みを経て、2002年よりアフリカ日本協議会の国際保健部門ディレクターとしてアフリカのエイズ・保健問題に取り組む。「ミレニアム開発目標」(MDGs)の達成を目指すNGOネットワークの責任者を務めたのち、2017年、「一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク」を設立に参画。「SDGs推進円卓会議」「グローバルヘルス戦略有識者タスクフォース」など政府のSDGsや国際保健分野の政策策定にも参加。共著書に「SDGs 危機の時代の羅針盤」(岩波新書、2020)、「流儀」(生活書院、2008)など。